

場合、症状はアメーバ赤痢に類似する。*B. coli* は本来ブタの寄生虫であり、ヒトの感受性は必ずしも高くない。ブタでは通常組織内侵入性を示さない。図6には、ブタ大腸粘膜下に侵入した栄養体を示す。栄養体は長径50~100 μm に及ぶ大型楕円形を呈し、体表は短い繊毛で覆われている。ソラマメ型の大きな「栄養核」と多数の食胞の存在が特徴的である。嚢子は50~60 μm の球形で繊毛はみられない。本症が虫垂炎として発症する場合も報告されている。

なお、繊毛虫類に属すゾウリムシ *Paramecium* やテトラヒメナ *Tetrahymena* は分子生物学における優れた研究対象として広く利用されている。

参考文献

- 1) 猪狩 享, 森山佐知子, 比島恒和ほか: 増加しつつある感染性腸炎. 病理と臨床 1997, 15: 315-322
- 2) Current, W. L., Garcia, L. S.: Cryptosporidiosis. Clin Microbiol Rev 1991, 4: 325-358
- 3) 望月祐一, 川崎 厚, 吉田隆亮ほか: 戦争イソスポーラ長期感染の1例. 胃と腸 1994, 29: 969-974
- 4) 信藤 肇, 林 雄三, 盛生宏一ほか: 胆嚢癌を合併した *Isospora belli* 長期感染症の1剖検例. 病理と臨床 1998, 16: 99-102
- 5) 井関基弘, 木俣 勲, 宇仁茂彦ほか: シクロスポーラ症の本邦第1例と腸管寄生原虫の3種混合感染の1例. Clin Parasitol 1996, 7: 43-45
- 6) Ortega, Y. R., Sterling, C. R., Gilman, R. H. et al.: *Cyclospora* species; A new protozoan pathogen of humans. N Engl J Med 1993, 328: 1308-1312
- 7) 増田剛太: クリプトスポリジウム症とサイクロスポーラ症. カレントセラピー 1999, 17: 327-330
- 8) Dodd, L. G.: *Balantidium coli* infestation as a cause of acute appendicitis. J Infect Dis 1991, 163: 1392
- 9) 渡辺良雄: 線毛虫の分子生物学. 序にかえて. 蛋白質核酸酵素 1994, 39: 101-105

■生検で確定診断されたクリプトスポリジウム症

症例: 健常な17歳男性, 学生. 10日前より, 感冒様症状とともに1日30~40回に及ぶ水溶性下痢が続く. 発症1ヵ月前に北海道の獣医を訪問し, 多くの動物と接触している. 周囲に同様の症状を示す人はいない. 保存的治療に反応しないため, 診断目的で終末回腸と大腸から生検が行われた. 組織学的には, 炎症像と再

生性変化がめだち, 粘膜固有層には好中球, 好酸球が浸潤している. 上皮表層部に径2~3 μm の好塩基性小粒子が観察された(図7). この小粒子はPAS染色陽性で, 集団発生患者血清および抗 *C. parvum* モノクローナル抗体(Novocastra社)に反応したため, クリプトスポリジウム症の診断が確定された(図8). 本例では, 感染は小腸のみならず大腸にも観察された.

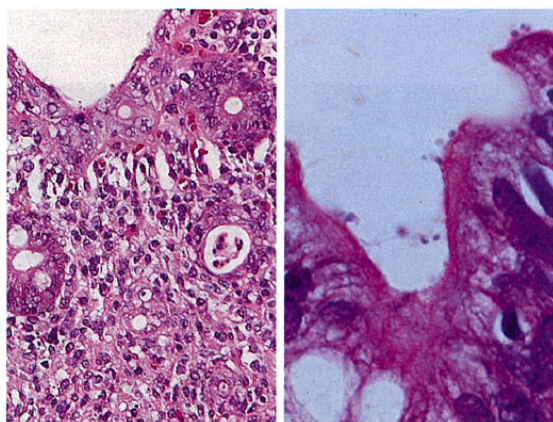


図7 下痢症患者からの終末回腸部生検I(HE染色) 顆粒球を混じる著しい炎症像と上皮の再生所見が観察される。表層上皮の刷子縁に接して, 好塩基性小粒子が付着している(九州大生体防御医学研究所検査部, 吉河康二博士のご厚意による)。

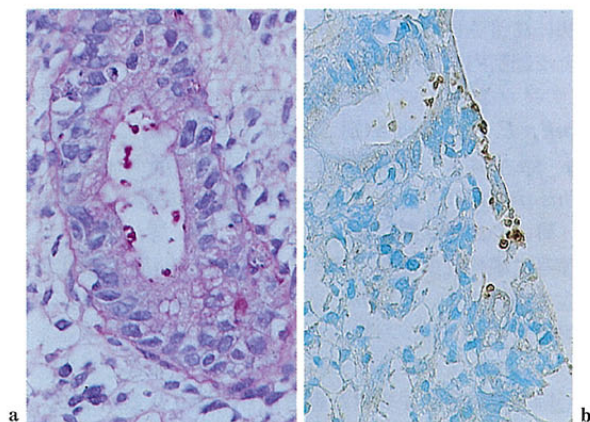


図8 下痢症患者からの終末回腸部生検II(a: PAS染色, b: 集団発生クリプトスポリジウム症患者の血清を用いた酵素抗体法間接法) 粘膜表層に付着する小粒子は, PAS染色とともに, 集団感染クリプトスポリジウム症患者血清に強く反応している。